みどりの地球を みどりのままで

共生の時代

●ホームページ　http://www.greencoop.or.jp/

'12 1月

●発行:グリーンコープ共同体理事会　●編集:共生の時代・編集部　●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階　TEL092（481）7923 FAX092（481）7876

「大きいお家」のような あたたかい場所に

2012年4月に開所する
「松島りすの森保育園」園長

林　伸子さん

■プロフィール■

福岡県田川郡添田町生まれ。長女、長男は独立し、現在は夫と二人暮らし。公立の幼稚園に28年、保育園に6年勤めた。2009年から、社会福祉法人グリーンコープ保育所開設準備室長。グリーンコープ生協ふくおか組合員

この春、福岡市東区松島に開園する「松島りすの森保育園」は、社会福祉法人グリーンコープが運営する2ヵ所目の保育園となる。園長になる林さんは、4月からの開園に向けて、忙しいが希望に満ちた日々を送っている。

グリーンコープはだれもが安心して子どもを産み、健やかに育てられる社会をつくることが大切と考え、さまざまな子育て応援を行ってきた。それをさらにすすめるために、社会福祉法人グリーンコープと連帯して、「松島りすの森保育園」を開園する。

「松島りすの森保育園」がめざすのは、安心して過ごせる家庭のような場所。そのような場所があれば、「子どもは自分で成長・発達していく力を持っている」と林さんは言う。先生に言われなくても、給食の音楽が聞こえたら手を洗って食べる準備をするというように、大人が指示するのでなく自分たちで行動できる子どもに育ってほしいと願っている。「0歳児、1歳児でも年上の子たちの行動を見て、真似て、学んでいるのです」。

給食は安心・安全なグリーンコープの商品を中心とした食材。厨房は、隣のランチルームより一段低くなっていて、子どもと調理している給食の先生の目の高さが合うようになっている。調理のようすを見て、においをかいで音を聞くと、子どもは自然に食に関心を持つようになる。基本は「食を楽しく」、そして生命（いのち）を育む食べものに出会い「感謝の気持ちを持つ」。これをはじめての集団生活で身につけることはとても大切だと林さんは考える。

自身も2人の子を育てながらずっと働いてきた。産後60日休んだだけで職場に復帰した。それには、同居していた義母の手助けが大きかった。はじめは授乳にしてもおむつ替えにしても、林さんは赤ちゃんに声をかけることもなく、黙々とやっていた。「赤ちゃんはしゃべらないから…」。しかし義母はしきりに赤ちゃんに話しかけている。無駄のように見えたが、そうすることによって子どもはコミュニケーション能力を身につけていくのだと、義母を見て気づいた。

「今のお母さんは子どもと2人っきりで家に閉じこもっている人も多く、そういう知恵を得るところがないのではないか」と危惧する。子育てサークルやサロンなども増えてきたが、お母さんが一歩外に出てそこを利用するようになるまでに、一人で悩んでいるのではないだろうか。「松島りすの森保育園」が、そういったお母さんの心の拠りどころになればと願う。

完成予想図

幼稚園・保育園で30年以上仕事をしていると、保護者から悩みを打ち明けられることも多かった。林さんは「話を聴く」ことを専門的に学びたいと考え、10年ほど前に産業カウンセラーの資格を取った。今回、保育園の開園にあたり採用した保育士は、20代から40代まで13人。このメンバーをまとめていくのにも、カウンセリングを学んだことが役に立つ。保育園のスタッフも互いを尊重しあいながら、それぞれの個性を生かした、あたたかい保育ができるようにしたい。保育を通して、グリーンコープの心を地域へ広げていけるように、「今、保育士みんなで研修中です」とのことだった。

りすの森という名前があらわすように、園庭には木を植えてベンチを置く。地域の人もお母さんたちもくつろいでもらえるような場所にしたい。「地域に根づき、子どもたちを地域の人たちが見守ってくれる、そういう保育園に育てたい」―それが今の林さんの夢。

20年後、30年後も見据えた、グリーンコープの子育て応援を形にした保育園に育てていきたいと思っている。

Contents

日本の農業を守るために生かされている生産奨励金
2011年ジュース用(加工用)トマトの生産者に生産奨励金を届けました
2009年度産豆腐用大豆の生産奨励金を生産者に届けました　2

うちのメーカー・うちの生産者 ⑮
農事組合法人 西岳高原農場組合　3
ぬ産直放牧黒豚

私たちにつながる多くの人たちの「いのち・しぜん・くらし」を守るために、さまざまな困難を連帯の力で乗り越えていきましょう　4・5

子育て応援学習会
グリーンコープ共同体福祉委員会
行き場のない若者の自立を支える　6

さよなら原発！福岡1万人集会
「脱原発」を求めて15,000人の市民が集った　7

別紙にて、「放射能汚染と向きあう（放射能測定室より）」シリーズ（4）被災地復興の今を掲載

日本の農業を守るために生かされている生産奨励金

カタログGREENの対象商品についているマーク

グリーンコープでは、農畜産物はもちろん、加工食品の原料も国産にこだわっています。国内での生産が非常に厳しい状況にある農産物には生産してもらうために商品の代金に上乗せする生産奨励金を設け、生産者を応援しています。生産奨励金によって、生産者は安定的に継続して生産することができ、それは日本の農業を守ることや私たちの食の安全に繋がっています。

2011年11月、組合員から生産者に、ジュース用（加工用）トマトと豆腐用大豆の生産奨励金を届けました。そのようすを報告します。

ジュース用（加工用）トマトは、加工用トマトの輸入自由化によって、1975年頃は年間約40万t生産されていたものが、2004年には、5万tを切るまでに激減した。このままでは、国産トマトのジュースやケチャップなどを利用することができなくなるという危機感から、2005年からジュース用（加工用）トマトの生産者に生産奨励金を届けてきた。現在、日本で生産される加工用トマトは約4万t。その内31 50t程度が、グリーンコープの生産奨励金を届けている生産者の生産量。組合員の利用の結集が日本の農業に大きく貢献している。

また、日本の大豆の自給率は6%。価格の安い輸入大豆の影響で、生産は減少している。グリーンコープの豆腐やあげなどの原料である国産大豆を安定的に確保するためにも、日本での生産を少しずつでも増やしていかなければならない。2009年、福岡県のJA筑前あさくら、JAむなかた、JA柳川の3農協と複数年の契約を結び、生産者が安心して大豆栽培ができ、グリーンコープは安定的に原料を確保することができるようになった。

グリーンコープは、他にも産直米や産直びん牛乳、落花生などの生産者に生産奨励金を届けている。

2011年ジュース用（加工用）トマトの生産者に生産奨励金を届けました

産　地	生産奨励金額
JA佐久浅間	531,800円
JAグリーン長野	663,100円
JAながの	3,105,150円
JAあづみ	3,423,800円
JAふらの	652,000円

上記以外にも3産地に505,980円届け、今回の生産奨励金は合計で8,881,830円でした。また、長野県のジュース用（加工用）トマト産地には、生食用として企画し、援農支援費として70円を商品代金に上乗せし、合計100万円を生産者に届けています。

2011年11月8日、北海道のJAふらのに生産奨励金が届けられた。生産者からは「気象状況が不安定で、収穫量が減少していますが、組合員さんから、来年を楽しみに待っていますと励まされました。とても心強く思います」という話があった。また、収穫の大変さや、人手不足の話もあり、組合員からは、直接手伝うことはできないが、利用することで支えていきたいという気持ちが伝えられた。

同日、長野県のJA佐久浅間、JAながの、JAグリーン長野、JAあづみの生産者にも生産奨励金が届けられた。「今年の作柄は、3月12日の長野県北部地震、天候不順などで、トマトの収穫は最悪の状況。そういう中でもグリーンコープとの信頼関係は保たれています。生産奨励金には非常に感謝しています」との報告が生産者からあった。また、JAグリーン長野の常務理事近藤さんからは、長野県の農業従事者の高齢化や後継者不足などの厳しい状況が報告された。組合員は、産地の状況を伝え、利用を広げたいという話をした。

◀ JAふらの
生産奨励金の目録が、ふくおかの松本さんから、生産者の安齋さんに手渡されました

JA佐久浅間
（長崎）理事長髙橋さんから、生産奨励金の目録が生産者の片桐さんに手渡されました ▶

2009年度産豆腐用大豆の生産奨励金を生産者に届けました

2011年11月9日、JA筑前あさくらに生産奨励金が届けられた。当日は同体商品おすすめ委員会視察交流会もあり、大豆畑やカントリーエレベータ※の見学も行われた。今年は病害虫、台風の被害も少なく品質作柄ともに良好。JAからは、大豆畑を増やす方向で考えていることなどの話があった。また、普通作部会 部会長の印丸さんは「安心して食べられる豆作りに努力しています。これからもよろしくおねがいします」と挨拶。共同体商品おすすめ委員の栗山さんは「どこでどのように大豆が作られているか知ることができて、とてもよかった。生産者のみなさんの努力を、組合員みんなに伝えます」と挨拶し、和やかな雰囲気の中で贈呈式が行われた。

2011年11月10日には、豆腐用大豆の生産者に生産奨励金を届けた。JAむなかたでは、大豆部会部会長の吉永さんから「食べてくれる組合員と生産者との絆が一番大事ではないかと思いますので、今後ともこの関係を大切にしていきたいと思っています」との挨拶があった。

JA柳川では、普通作部会 部会長の髙田さんから「今年度は台風などの被害も無く、大豆は順調に育っています。まもなく収穫を迎えますが、前年度より増収になると予想しています」というううれしい報告があった。グリーンコープからはさがの副理事長福嶋さんが、「私たち組合員は国産大豆のことをもっと伝えて、食べ続けていこうとアピールをしていきたいと思っています。生産者のみなさんも、ずっと元気で作り続けていただきたいと思います」と挨拶した。

大豆畑

JAむなかた
さが副理事長福嶋さんより、吉永さんに生産奨励金の目録が手渡されました ▶

▲
JA柳川
ふくおか南地域理事長武岡さんより髙田さんに生産奨励金の目録が手渡されました

JA筑前あさくら
共同体商品おすすめ委員会委員長阿部さんより印丸さんに生産奨励金の目録が手渡されました ▼

※穀類の乾燥・調製施設と大型サイロとを農業用エレベーター（チェーンコンベヤ、スクリューコンベヤなど）で連結した大型農業倉庫

産　地	生産奨励金額
JA筑前あさくら	5,850,000円
JA柳川	5,850,000円
JAむなかた	3,300,000円

うちの生産者

115

長崎県西海市
農事組合法人 西岳高原農場組合

うちのメーカー

産直放牧黒豚

グリーンコープでは、取り扱っていた「鹿児島黒豚」が伝染病（オーエスキー病）の流行で、手に入らなくなった2007年に、「産直で、もっとグリーンコープらしい黒豚を開発しよう」と検討をはじめ、黒豚の飼育について調査する中で「放牧黒豚」に出会いました。「経済効率を優先する育て方ではなく、生きものとして自由に健康に育つ放牧黒豚こそ、グリーンコープがめざす自然との共生をかたちにしていくことではないか」と考えるようになり、2009年から、グリーンコープの産直畜産物の生産者と開発への協議を重ね、西岳高原農場組合(以下、西岳高原)と岡山ふたみ牧場で開発に取り組むことになりました。

2011年11月、その産地の一つである西岳高原を訪ねて、会長の山本功さんと孫の裕貴（ゆうき）さんから養豚への思いや、黒豚の放牧に取り組む日々について話を聞きました。

山本功さん　山本裕貴さん

周りを海で囲まれ、自然豊かな山と川に恵まれた長崎県西海市に、グリーンコープの前身生協時代から取り引きのある産直豚肉の生産者、西岳高原がある。これまでずっと産直豚を育ててきた山本さんは、グリーンコープから放牧黒豚の提案を聞くなり、「うちではできん」と断った。70歳を目前に、体力的に厳しい。まして黒豚の飼育や、放牧して育てるということも未経験だったからだ。しかし、鹿児島県の放牧黒豚の視察を重ね、自然の中でのびのびと育つ放牧黒豚を見て「育ててみよう」と決意した。

黒豚は、バークシャーというイギリス原産の純血種。鼻と尾、四肢の先端の6ヵ所が白いため「六白（ろっぱく）」とも呼ばれている。[※1]雑種強勢した豚に比べて体は弱く、小柄で生育期間も長い。また、出産頭数も少ないという弱点を持っている。しかし、肉質は筋繊維が細かいので歯切れがよく、ほのかに甘みがあっておいしいと言われている。

2009年7月、3頭の母豚の導入と同時に、グリーンコープ生協さがとグリーンコープ生協（長崎）の組合員が「ぶーふーうー黒豚委員会」を立ち上げ、「ぶ産直放牧黒豚」の共同開発をはじめた。2010年2月に初めてのお産を迎えたが、出産頭数も少ない上、死産や離乳後のへい死[※2]なども多く、安定した生産ができるようになるまでには試行錯誤が続いている。

生命（いのち）や食べものに対する思いに共感した

山本さんは西海市の離島、崎戸町に生まれ育った。白豚の養豚をはじめたばかりの父親が急死し、39歳で役場を辞めて後を継いだ。販路を開拓していく中で、グリーンコープの前身生協の一つである長崎の県南生協と出会った。「生命に対し、感謝の気持ちを持って大切に育てる」ことを信念としてきた山本さんは、「生命」や「食べもの」に対する生協の考えに共感し、1984年から取引を開始。

生産が安定してきた1986年、現在の場所に移り、規模を拡大した。同様にパッカー工場「山壱屋」も立ち上げた。養豚を弟に任せ、山本さんはパッカー工場を経営していたが、2003年、病気の弟に代わって再び養豚に専念することになった。

昨年の9月から裕貴さんが加わったことを機に、黒豚の世話を任せている。現在6人で放牧黒豚約100頭、産直豚約900頭を飼育している。

自然に近いかたちで育てる

西岳高原は山の斜面を切り開いた場所にある。豚舎は壁のない開放的なつくりで、敷地面積約5000㎡の放牧場と隣接している。

朝8時半の餌やりと同時に柵を開放し、夕方16時の餌やりまでが放牧時間だ。「餌の時間は必ず豚のようすを見て、健康状態や発情期を見逃さないようにしています」と裕貴さん。交配時期を逃すと、次の発情期まで21日以上も待たなければならない。安定した生産のために、母豚の状態には特に気を配っている。

餌はnon-GMO（遺伝子組み換えでない）でPHF（収穫後農薬不使用）の配合飼料に県内の規格外のバレイショを加えて、西岳高原独自の発酵飼料を作っている。

豚は汗腺が発達していないため体温調節ができない。暑さに弱いので、夏場はできるだけ体力を落とさないように餌を1日3回に分けて与えたり、ニンニクの粉末を混ぜるなど、豚の健康管理に気をつけている。「豚は体が大きくなるほど暑さに弱いんです。夏場は放牧場の大きな水溜りに浸かって、顔だけ出して涼んでいますよ」と裕貴さんは笑顔で話す。最近建ったばかりの豚舎には、バイオベッド[※4]（発酵床）を導入した。豚の糞尿が発酵菌によって分解され、臭いや汚水の発生が減るので環境にも優しい。「長崎県でバイオベッドを導入している豚舎はここだけです」と山本さん。また、妊娠中の母豚がバテないようお産用豚舎には断熱材の入った屋根と大型のファン6台を各壁に設置している。できるだけ自然に近いかたちで、豚に手をかけすぎない飼育方法を確立しようと試行錯誤している。

こだわりのおいしさを食べてほしい

ぶーふーうー黒豚委員会では、組合員と生産者が飼料の配合や、与える時期などの検討を行っている。月に一度西岳高原を視察に訪れ、黒豚の成育状況を見て生産者と交流している。

ぶ産直放牧黒豚について山本さんは、「脂のしつこさがなく甘味があり、とてもおいしい」と太鼓判を押す。裕貴さんは「真心を込めて育てた放牧黒豚を、たくさんの組合員のみなさんに食べて欲しいですね」と語る。

「組合員に『おいしかった』と言って食べてもらいたいので、豚の持っている力を100％引き出せるよう、私たちは大切に育てています」と山本さんはやわらかな眼差しで語った。そんな西岳高原の思いの詰まったぶ産直放牧黒豚が5月から組合員の元へ届けられることになる。

放牧黒豚を育てているもう一つの産地、岡山ふたみ牧場では、グリーンコープが設定している放牧黒豚の飼育基準の中で、西岳高原とは違う育て方を模索している。

ぶ産直放牧黒豚は2012年5月からカタログGREENに登場予定。2012年秋に本格供給をめざしている。

西岳高原農場組合の放牧黒豚の飼い方

成育ステージ	日齢	飼育方法	飼料
授乳期	生後～27日	柵飼い	母乳
離乳期	28日～90日	柵飼い＋舎飼い	母乳、人工乳
成育期	91日～160日	放牧	育成飼料
肥育期	161日～210日	舎飼い	肉豚用飼料、穀物飼料

西岳高原農場組合の産直放牧黒豚の飼料

原料名称
とうもろこし（non-GMO）、 バレイショサイレージ、 マイロ、大麦、小麦、 大豆油脂（non-GMO）、 菜種油粕（non-GMO）、 ふすま、魚粉、 炭酸カルシウム（鉱物由来）、 食塩、りん酸カルシウム、 パン粉、その他

大きな水溜りで水浴びをする

※1異なる品種を交配させ、それぞれの品質の持つ遺伝的長所（大きさ、肉質、繁殖性など）を現れやすくした手法
※2何らかの原因で死んでしまったこと
※3と畜された肉をカット・スライスし、精肉パックに加工する業者
※4オガクズ、藁、モミガラなどの敷料を堆肥化したものを床に敷き、発酵菌を入れ、その上で豚を飼育する

2012年 今年もどうぞよろしくお願いいたします

藤原 登美子 理事長

グリーンコープ生協おおさか

昨年はお米と野菜の取り組みを通して、おおさかでも多くの組合員がたくさんの生産者の方と出会い、グリーンコープの産直を実感することができました。今年もグリーンコープの商品の良さやさまざまな取り組みをもっと地域に伝えていきたい。そして、もっともっと仲間を増やしてグリーンコープの輪を広げていきたいです。人と人とのつながりを大切にして、元気に楽しく活動していきます！

土方 明子 理事長

グリーンコープ生協ひょうご

1年前と現在の私たちの中で明らかに変わったことがあると思います。大きなものを失い、それに代わって得られた人と人との絆があります。大事なものは何か、何をしないといけないのかと考えるようになりました。地域の中で、仲間を増やし、ひょうごの地でグリーンコープの理解者を増やしていく。そして原発に、遺伝子組み換えに反対する。その活動の一歩をはじめたいと思います。

たちの
し」を守るために
で乗り越えていきましょう

事故に襲われました。失ったものの大きさ、被災地
らもきめ細やかな支援をつづけていきます。そして、
原発を強く訴えていきたいと考えています。
日本社会にも大きな影を落としはじめています。こ
しの課題に真摯に向きあい、助けあい支えあう協同
わるすべての人たちと連帯を深めたいと思います。

黒田 明穂 理事長

グリーンコープ生協おかやま

おかやまでは昨年、地区委員会が発足しました。グリーンコープをもっと身近に感じ、組合員のみなさんが協同して行っていく喜びが感じられるような活動を、今年もめざしていきます。また、今春はいよいよ待ちにまった『産直放牧黒豚』が登場します。3年前、岡山ふたみ牧場に母豚を2頭導入してから、生産者と共にかかわってきました。ゆったりと育つ放牧黒豚が、組合員みなさんに親しまれるものになってほしいと願っています。

松村 理津子 理事長

グリーンコープやまぐち生協

3月3日、「GMOフリーゾーン全国交流集会inやまぐち」を開催します。遺伝子組み換えに反対する生産者や消費者が全国から集まるこの大きな集会が成功するよう、生産者の皆さんと共に楽しく検討し、全力で頑張ります。

2012年もたくさんの仲間に出会えることを楽しみに、つどいや試食会はもちろん、さまざまな取り組みをしますが…今年は参加を呼び掛けるだけでなく、地域のイベントやご自宅にお邪魔するなどこちらから出向いて行く企画も考えますのでお楽しみに♪

田原 幸子 理事長

グリーンコープ生協ふくおか

今年も誰もが安心して生きていける社会であるよう願い、みんなで心と力をあわせて、「生命を育む食べもの運動」をすすめていきたいと思います。そして、震災と原発事故を忘れずに、被災地の方々と共に前を向いて暮らしをつくっていきたいと思います。ふくおかでは、地域で買い物が困難になった方々の課題を解決していくために、生活必需品を移動販売方式で支援する事業「みんなのお店元気カー」を新たにはじめ、助けあい支えあいをすすめていきます。

久米田 薫 理事長

グリーンコープ生協くまもと

昨年は、お米と野菜を中心に、びん牛乳やあか牛ハンバーグの利用を組合員とワーカーズ、専従が一丸となって呼びかけ、成果がありました。特に、阿蘇の草原を守ることにつながるあか牛ハンバーグには力が入りました。今年は、皆で一致団結してさらに利用を呼びかけていきたいと思います。また、脱原発など、私たちの暮らしを脅かすものに対して声をあげていきたいと思っています。

奥田 富美子 理事長

グリーンコープ生協おおいた

「命が一番」と誰もが感じた3・11。9月に被災地を訪問した。支援体制が整ってボランティアが活動できるところとそうでない地域。理由を聞いて日常の関係性の良し悪しが、いざ、まさかの時に顕著になることを学んだ。そして命を真ん中に据えて活動するグリーンコープだからできることや存在意義を痛感した。もっともっとグリーンコープを世の中に拡げたい。放射能を出し続ける原発もすぐに止めなきゃ。「日常を大切に」今年も走り続けます。

私たちにつながる多くの人
「いのち・しぜん・くら
さまざまな困難を連帯の力

昨春、日本は東日本大震災、東京電力の原子力発電所の
の人たちの苦しみに心を寄せ、グリーンコープはこれから
何よりも生命（いのち）を大切にしてきたグリーンコープとして、脱
ヨーロッパの信用不安に端を発した世界的な経済危機が
ういう時代だからこそ、グリーンコープはさまざまなくら
を解決の糸口として、組合員、生産者、メーカーなどかか

小椋 あけみ 理事長

グリーンコープ生協とっとり

２０１１年は忘れられない、忘れてはならない年になりました。悲しみに心を痛めながらも、人と人とのつながりに私たちは生きる力を与えられるのだと実感しました。とっとりは今年、新配送センター建設、稼働に向けてさらなる仲間づくりをすすめます。新しい仲間を迎え、そこに温かな人と人とのつながり、助けあい、支えあいを育み、それが私たちの未来へ向けた生きる力となっていけることを願います。

角 幸恵 理事長

グリーンコープ生協（島根）

昨年地域福祉をすすめていくために「福祉アンケート」を実施したところ、組合員からの回収率は80％を超えました。「地域で何が必要で、どんなことができるのか」を検討するための「地域福祉を考える会」も発足し、福祉が具体的な形になろうとしています。今年はお店を拠点に組合員の輪が広がり、地域がさらに豊かになっていくような「お店共同購入」をすすめていきたいと思っています。

林 和子 理事長

グリーンコープ生協ひろしま

ムザヒル校長の子どもたちへの愛情、生産者の食べる人への思い、ネグロスの人々の子どもたちの未来を思う自立への姿勢。強い信念は人を思う心から生まれることを、たくさんの出会いから知りました。もっとも弱い立場の人の目線に立った被災地支援活動に、「生命そのものを大切にすること」「助けあいの地域づくり」をあらためて理解することができました。仲間と共に日々の暮らし、助けあいを大切にした活動をしていきたいです。

田中 裕子 理事長

グリーンコープ生協さが

さがの組合員の長年の夢であった、お店1号店が今年2月に鳥栖市にオープン予定です。「お店共同購入」のかたちで、組合員と地域に愛されるお店をめざし、佐賀県内にたくさん広げていきたいと思っています。今年も生命（いのち）そのものと日常を守る取り組みをすすめ、人と人とのつながりを大切にしながらグリーンコープを豊かに広げていきたいと思います。

髙橋 純子 理事長

グリーンコープ生協（長崎）

長崎では、２０１０年から検討をスタートした「お店」について、今年はいよいよ形にしていく年としたいと考えています。また、地区・地域で開催する学習会、講演会、視察見学、そして組合員総会など、組合員のみなさんに参加していただける場をたくさん準備していきます。たくさんの組合員のみなさんの参加をお待ちしています。どうぞご期待くださいね。

永野 清美 理事長

グリーンコープ生協みやざき

昨年は、遺伝子組み換えに反対する運動として署名活動に取り組み、全国からたくさんの署名を集めることができました。また、福祉活動組合員基金の取り組みも3年目になり、活動やワーカーズの存在が、さらに宮崎の地で広がりをみせています。今年も「食べもの・環境・地域福祉」など、今の自分たちにできることを考えて行動を起こし、より多くの組合員と出会える場をつくっていきたいと思います。

川原 ひろみ 理事長

グリーンコープかごしま生協

昨年は東日本大震災と震災による東京電力の原発事故で多くの尊い命が失われ、日本中が深い悲しみに覆われました。放射能汚染は、これから長い期間、私たちの生活を脅かす恐ろしいものとして存在しますが、命を大事にするグリーンコープだからこそできることを一つずつ、皆で作り出していきたいと思います。

皆が幸せに暮らせる社会をめざして、共に頑張っていきましょう。

子育て応援学習会
グリーンコープ共同体福祉委員会

行き場のない若者の自立を支える

2011年11月24日、グリーンコープ共同体福祉委員会主催の子育て応援学習会「子どもたちの居場所」が、地域の中で子育て応援について考えることを目的に福岡市で開催され、約110人の組合員が参加しました。講師は大分市にある自立援助ホーム[※1]「ふきのとう」ホーム長の澤田正一さん。児童養護施設などを退所後、行き場のない若者に居場所を提供し、自立を支える日々の取り組みについて話を聞きました。講演の要旨を紹介します。

講師 澤田　正一さん
NPO法人「青少年の自立を支える青空の会」代表
自立援助ホーム「ふきのとう」ホーム長
グリーンコープ生協おおいた組合員

自らの生い立ち

別府市高崎山の麓にある乳児院に2歳の時に預けられ、100人もの子どもたちが入所する乳児院と同系列の児童養護施設でシスターたちに育てられた。家族の思い出はないが、イタリア人の神父から養育者としての愛をもらった。

高校を出て広島で就職。施設から出てはじめて本当の孤独を知り、死にたくなった。アルコール依存症のようになり、お酒を飲まないと人と話せない、人に会えない状態に陥った。

立ち直るきっかけをつくってくれたのは大分にいる小学校時代の恩師だった。22歳で大分に戻り、育った施設にアルバイトとして雇ってもらった。子どもたちの笑顔に癒され、やっと自分はこういう仕事をしたいと思えた。死に物狂いで勉強し保育士の資格をとって、32歳で児童養護施設の職員になった。

そこではじめて、児童虐待というものを知った。被虐待児が抱えるさまざまな問題に対応するため、社会福祉士の資格をとった。

「ふきのとう」を立ち上げた動機

高校を中退した子どもは否応なく児童養護施設から退所させられ、自立しなければならない。しかし、保証人がいないので、アパートも借りることができず建設関係の会社で住み込みで働くなどしかない。

K君は、16歳で施設を出た。借りたアパートは行き場のない子どもたちの溜まり場になり、追い出された。行き場がなく、強盗で捕まった。二度と強盗はしないから児童養護施設に戻して欲しいと頼んだが、拒否された。受け入れてくれる施設はどこにもなく、少年院送りとなった。私は自分の無力さを感じ、心が痛んだ。施設を出てから、もがき苦しみ、ずたずたにされながらも一生懸命生きているのに、その子たちに福祉の手は回ってはいない。サポートしてやれなかった子どもたちは多い。子どもたちが抱える自立の課題が深刻であることから、2004年に施設を辞め、借金して築20年の学生寮を購入し、自立援助ホーム「ふきのとう」を開設した。

自立に向け頑張る子どもたちに寄り添う

自立に立ちはだかる壁に直面しながらも、社会へ飛び出そうとする若者たちに寄り添い支えるのが、私たち夫婦の日常だ。心に傷を抱えた若者たちを家庭的な雰囲気で包む。若者たちが一人で生きていけるよう、仕事探しをはじめ、金銭管理の仕方、日々の体調管理、洗濯、掃除、料理まで教えている。

厳しい経営が続くが、入所の希望は後を絶たない。国や県からの補助金と若者が支払う月3万5千円の寮費だけでは足りないので、多くの人に寄付を呼びかけている。

中3の時にやってきたT君は、2年間アルバイトとして食肉工場に無遅刻、無欠勤で通ったことが評価され、20歳を目前に正社員として採用されることが決まった。自立への歩みは順調に見えたが、深夜に壁に頭をぶつける行為がはじまった。幼い時から不安になるとそうしていた。ホームに来て治まっていたが、退所が近づいて心の奥に刻まれた記憶がよみがえったのではないかと感じた。T君の不安をどうすれば取り除くことができるのか夫婦で話しあい、ずっと見守ってきたことを伝えたいと考え、T君のこれまでのホームでの生活のスライドショーを制作し上映した。いつの間にか笑顔になっていたT君に、「仲間はいっぱいいるから心配せんでいいよ。なんかあったらいつでも帰ってきていいんだよ。だって、ここはT君の家なんやけんね」と伝えた。T君は「ここに来ることができて感謝している。行くところがなくて困っている人がいたらここを紹介したい」と言ってくれた。ホームから自立して3年が経った現在、T君は無遅刻、無欠勤を続け、毎週のようにホームにご飯を食べに来ている。現在もT君のいろんな話を聞いて支え続けている。世の中で理解してくれる人が、たった一人でもいれば、彼らはずっとつながっていく。ずっと社会の中で生きていける。

ふきのとうでは絶対に安心安全だ

Y君は、ADHD（注意欠陥多動性障害）だが、病気の特性を理解してもらえずに、父親から体罰を受けた。その腹いせに小学3年生の時学校に放火し、教護[※2]院に送られた。ホームに来た時には、「最高級のそばを食べたい」と無理難題を要求した。用意したそばは食べず、寮費は投げ渡し、「なぜ、殴らないのか」と挑発するY君に、私は怒りたい気持ちを我慢した。根気よく向きあうことで信頼関係を築くことができると考えるからだ。大人は暴力をふるうものと思いこんでいるY君にとって、「ふきのとうでは、いっさい暴力はない。絶対、安心安全だ」という私の言葉は衝撃だったようだ。今は自分の家に帰っている。

作る人の思いが伝わる食事が大事

ホームに来る子どもの3割はホームレス状態のところを保護されている。神社や公園で過ごしたり、弁当を拾って食べたりしていた。「ふきのとうに来て、はじめてみんなで食べるご飯をおいしいと思った」という子どもの言葉が印象に残っている。児童養護施設では、食事を作る人の顔が見えない。食事は、作る人の思いとか温かみが伝わってはじめておいしいと思うもの。ふきのとうでは、「食べている米や魚、野菜は、寄付でいただいたものだから粗末にしちゃいけない。食べものを粗末にすると罰が当たる。好き嫌いはあるかもしれないけれど努力しよう」と言っている。ホームに来たときには食べられなかったものが食べられるようになる子も多い。食事は思いを込めて作ることと、それを感謝しながら皆で食卓を囲むことが大事だと思う。

生きていればいいことがある

福祉というのは、身構えてするものではなく、隣の人はどうなのかや、地域のみんなが豊かに生活するにはどうすればいいのかを考えていくことだと考える。

短い期間でもふきのとうに来て良かった、僕たちに会えてよかった、と思ってくれたらいいかなと思う。いのちがあれば、その後、幸せになれるかもしれない。僕も支えてくれる人がたくさんいたから、今ここにいる。みんなどこかでつながっているという感謝の気持ちでいっぱいだ。

「ふきのとう」の入口

澤田さん夫妻

※1義務教育終了後、15歳から20歳までの家庭がない児童や、家庭にいることができない児童が入所して自立をめざす家。定員は6～10人位

※2不良行為をし、またはする恐れのある児童を入院させてこれを教護することを目的とする児童福祉施設

ふきのとうでの約束事

（ホームページより抜粋）

仕事をする
仕事は自立のためにとても大切です。毎月の給料に応じた貯蓄をすること

費用を払う
月額3万5千円の寮費を支払うこと

自分の行動に責任を持つ
ふきのとうの規則があるので、他人に迷惑にならないようお互いを大切にすること

自分でできることは自分でする
部屋掃除、洗濯、食器洗いなどは各自ですること

さよなら原発!
福岡1万人集会

「脱原発」を求めて 15,000人の市民が集った

2011年11月13日、福岡市舞鶴公園で「九州・沖縄・韓国に住む市民でつくる さよなら原発！福岡1万人集会実行委員会」の主催で集会が行われた。グリーンコープも組合員に参加を呼びかけ、ひろしまからみやざきまでの単協から組合員や職員、ワーカーズが100人程かけつけた。グリーンコープは会場で独自の集会を行った。

会場に集った15,000人の市民が3コースに分かれて「原発いらない！」とシュプレヒコールをあげながら、2時間にわたって舞鶴公園から天神を通り、九州電力本社前までデモ行進をした。

藤田祐幸さん

集会は沖縄エイサーで幕を開け「原発と基地はいらない！」のメッセージに会場からは拍手が上がった。シンポジウムでは、これまで原発の危険性を訴え、活動を続けてきた4人が脱原発を訴えた。その一人、藤田祐幸さん（元慶應義塾大学助教授）は「市民に原発の危険性を伝えることが使命だと思い、二度と被曝者を出さないようにと活動してきた。にもかかわらず、原発事故が起こり、絶望感と無力感をまだ引きずっている。私たちにできることは、すべての原発を直ちに止めることと、福島の子どもたちを今すぐ救い出すことだ」と訴えた。

代表呼びかけ人挨拶では7人が次々に壇上に上がった。その一人、宇野朗子さん（※ハイロアクション福島）は「福島から子どもを連れて福岡に避難している。温かく迎えてくれてありがとう。この事故で多くのモノを失った。故郷、残してきた家族、友人をひと時も忘れることはない。福島で被曝し続ける子どもたちを救わなければと心から思う」と訴えた。

宇野朗子さん

集会は「二度とふたたび悲惨な原発事故の悲劇をくり返してはなりません。私たちは今日、ここに集った1万有余の意思として、すべての原発の廃炉をもとめます」と集会宣言をして、デモ行進に向かった。

グリーンコープののぼりを立て、横断幕をかかげて「原発いらない！」と声を上げた

グリーンコープ独自の交流集会

共同体代表理事　田中裕子さん

グリーンコープはこれまで「原発と生命（いのち）は共存できない」と脱原発運動をすすめてきました。原発事故が起きてしまったのに、国は放射能検査をすることで食品の安全性を認めさせようとしています。微量の放射能汚染でも安全ではないんだ、と訴えていきたいと思います。私たちが子どもたちに手渡したいのは、これ以上モノのあふれる世の中ではなく、安心して暮らせる生命を大切にできる世の中だと思っています。一人ひとりの行動で原発のない世界を実現していきたいと思います。

集ったグリーンコープの組合員

くまもと理事長
久米田薫さん

急遽の呼びかけにもかかわらずたくさん集まってくれてうれしいです。東京から子どもを連れて熊本に避難して来た仲間の声を聞いてください。

避難してきた女性の声

6月に家のすぐ前の放射線の数値を測ると、2.3マイクロシーベルトもあり、もう子育てはできないと思って熊本に来ました。今日は心から子どもたちのために「原発はいらない」と訴えて歩きたいと思います。

（長崎）理事長
髙橋純子さん

ひろしま理事長
林和子さん

大変な事故を起こしたのにこの国は変わろうとしない。ここでくじけているわけにはいきません。電気に依存する暮らしも少し見直して原発を止めるまで声をあげていきたいと思います。

これまで関係を築いてきた東日本の方たちや農業や漁業を頑張っている生産者の皆さんのことを思うと胸が痛いです。今、自分たちでできることをやって本当に原発はいらないということを強く推しすすめていきたいと思います。

ふくおか理事長
田原幸子さん

ふくおかは組合員事務局や職員、お店や共同購入などのワーカーズも参加してみんなで盛りあげようと思います。何もしなければ何も変わらない。みんなで未来ある子どもたちのために、脱原発をめざして頑張りましょう。

No.41

プルサーマルの危険性と問題点

プルサーマルは、原子力発電所から出た使用済み核燃料を再処理してウランやプルトニウムを取り出し、製造した混合酸化物燃料（ＭＯＸ燃料）を再び使う発電方法です。ウランを燃やすために設計された今日の原子炉にプルトニウムを入れることは、もともと危険な原子炉をさらに危険にし、「灯油のストーブでガソリンを燃やそうとするのと同じ」と言われています。

ウラン自体猛毒の放射性物質ですが、プルトニウムはそのウランに比べて数十万倍もの毒性があり強力な核兵器の材料にもなるので、保有することは国際的に厳しく監視されています。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、人びとが安心して生きていく土台を根底からくずしました。さらにプルサーマルによって原発の危険性を増大させることは許されることではありません。この問題にどのように立ち向かうか、私たち一人ひとりが考えて行動していかなくてはならないと思います。

あやまちは、二度とくり返したくありません。

参考文献　小出裕章氏「隠される原子力　核の真実」　創史社

グリーンコープ共同体組織委員会

投稿募集中

テーマ
- わが家のエコ
- 私の好きな グリーンコープ商品

●400字程度
●〆切 毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード（500円分）進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報は、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
カーニープレイス博多3F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連（REN）「共生の時代」編集部 宛
FAX　092-481-7876
Eメールアドレス　rikoho@greencoop.or.jp

※全ての原子力発電所を廃炉とし、核燃料サイクル計画を放棄し、エネルギー政策の抜本的転換を行うことを、国・県に要求し、活動している

いま地域を考える
No.220

地域の絆を紡ぐ、南陵太鼓

福岡県鞍手郡鞍手町にある「NPO法人南陵塾（なんりょう）（以下、南陵塾）」は、2010年6月に誕生した。それは、中学校の南陵太鼓クラブを支えるために、保護者や教師が中心になって立ち上げた「南陵太鼓」の25年に及ぶ活動を礎としたものだ。

物語は、1986年の鞍手南中学校の文化祭で行われた生徒8人による太鼓の演奏からはじまった。

南陵塾理事長の梶原實さん、塾長の齊原直樹さん、営業企画課長の木村浩二さんに話を聞いた。

小学生教室は2クラス。元気のよい演奏は、大好評

前列左　梶原さん　後列左から齊原さん、木村さん
事務所にはいつも誰かが立ち寄り、人声が絶えない

有り余るエネルギーを太鼓にぶつける

1980年代は、全国的に中学校が荒れていた時代だ。鞍手南中学校も例にもれず校舎はぼこぼこ、文化祭を開催することもできなかった。1986年、そうした状況の中で生徒会を中心に「3年ぶりに文化祭を開催したい」という機運が高まった。教師たちも生徒たちのエネルギーをぶつける何かが必要と考えていた時だった。文化祭のテーマは「見つめよう未来」。この機会に未来まで残せる何かを創造したい、という共通の思いが生徒会と教師たちに熟成していった。それが、和太鼓の演奏という形になった。南陵太鼓の「南陵」は、鞍手南中学校の同窓会の名称からとったものだ。

10月に開催された文化祭。太鼓の音が講堂いっぱいに響き渡ると、全校生徒、教師、保護者は舞台に釘付けになった。当時1年生だった木村さんもその1人だ。

「ふんどしに鉢巻で演奏する先輩の姿は、格好よかったですね。いつもはオチャラケて騒ぐ生徒もクスリとも言わない。みんな息を呑んだ。演奏が終わった時、拍手が鳴り止まなかった。僕も太鼓を叩きたいと心底思いましたね」。

指導したのは教師の故長家さんたちだ。前任地で経験した「若宮の司書太鼓」を南陵太鼓に取り入れた長家さんは、2008年に急逝するまで「南陵太鼓」に深くかかわり、太鼓を通した子どもたちの育成に尽力してきた人物だ。

南陵太鼓保存会の誕生

「太鼓を叩く子どもたちの姿に、感動したねー。これは続けないかんとみんなが思った」と当時PTAの副会長をしていた梶原さんは話す。翌年の1987年、梶原さんたちは、南陵太鼓を続けていくために、校区の一軒一軒を回り寄付を募った。「地域のみんなが協力してくれました。中には孫のためにと、乏しい家計から500円を寄付してくれるお年寄りもいてね、その気持ちが忘れられんです」と梶原さん。太鼓を5台、購入することができた。南陵太鼓は正式に中学校のクラブとなった。そして、応援する保護者や教師が中心となって、南陵太鼓保存会（「南陵太鼓」）をつくった。クラブのOBや取り組みに共感した人々がメンバーとなっていった。

「長家先生たちには『南陵太鼓』を地域に根づかせ、地域全体が子どもたちの成長にかかわっていくようにしたいという思いがあったんです。それで、OBが非常勤講師となり、後輩の指導をしていくことになりました」と南陵太鼓クラブの4期生で、太鼓の指導者である齊原さんは感慨深く話す。

NPO法人の誕生へ

「南陵太鼓」は、太鼓指導者の派遣や育成に加えて、クラブの校外活動の補助や資金面での支援も行ってきた。太鼓の皮の張替えだけでも一つ十万円以上かかる。主な資金源は、公的な助成金や寄付など。2004年からは、小学生を対象とした太鼓教室を開催し、「通学合宿」や地域のお年寄りとの「ふれあい太鼓」などにも取り組んできた。校外活動は、子どもたちの健全育成のために取り組み、高齢者との交流など、地域全体を巻き込む活動に広がっていった。

「南陵太鼓」の活動がクラブの支援に留まらず、幅広いものになっていることから、県の教育委員会のすすめもあり、2010年、「南陵太鼓」は「NPO法人南陵塾」を立ち上げた。

南陵塾は、これまでの活動をNPO法人の事業として拡充し、より発展的に組織化した。理事長はじめ理事は11人。会員は現在63人。常駐の事務局1人。理事会の下に4つの事業部がある。

伝統文化事業部　和太鼓教室や発表会の開催、福祉施設などでの太鼓を通じてのふれあい、指導者の育成など

社会体験事業部　自然ふれあい合宿、通学合宿、物づくりの体験活動、農業体験など

スポーツ事業部　子どもから高齢者まで、スポーツを通じて健康の増進や仲間づくりなどを行う。ゴルフ短期レッスン、ニュースポーツ大会、体力測定会など

新規事業部　合宿時の調理の担当や食育活動など

それぞれの事業部が年間計画を立て、事業活動を行っている。南陵塾の会員は、自営業、公務員、サラリーマンなどさまざま。それぞれが持つ知恵や技術などを出しあって、手弁当で取り組んでいるが、NPO法人の事業としての収支はトントンだ。

鞍手南中学の文化祭。毎年PTAも出店し、地域の人たちもおおぜい訪れる

紡いできた26年の歳月

「後輩の指導などの活動にかかわって、感動したことは数知れない。その中でも、長家先生が連れてきた不登校の子どもたちが、太鼓を経験することで学校に戻っていけたことが忘れられません。太鼓は子どもたちの集中力を養い、仲間との一体感を生み出し、人と人をつなぎ、人を育て、地域を活性化させることができる。目的ではなく手段です。そして、僕にとって南陵塾は、人生そのものと言えるかな」。齊原さんは、塾長として多忙な毎日を送っている。

南陵塾の会員は、高校生から60代と幅広く、現在運営の中心になっているのは齊原さんや木村さんなど30代だ。それを創立時期から関わっている50～60代がバックアップしている。「この26年、みんなの努力と協力で、世代をつなぐことができる組織になった。南陵塾はこれまで以上に成長して、人づくり、地域づくりに役立っていければと思います。それが広がれば、国づくりにもつながるんじゃないかな」と梶原さん。

一方、中学校の南陵太鼓クラブも大きく成長してきている。部員は現在36人（全校生徒が120人前後）。全校生徒が太鼓と触れあう方針で、1年生の1学期には太鼓の授業がある。OBや保護者、太鼓教室のメンバーなどと共に、コンサートや演奏活動も活発に行われている。

南陵塾は、これまで培ってきたものを大切にしながら、これからも地域の中で世代を越えて受け継がれていく。

2011年11月の組合員数 395931人
（11/20現在）

リユース リサイクル データ 2011年10月分	牛乳びん 回収本数 706,707本 回収率 97.7%（9月18日～10月15日回収分）
リユースびん 回収本数 164,080本 回収率 55.9%	トレー 回収重量 10,052kg 回収率 50.0%
モウルドパック 回収重量 31,370kg 回収率 108.2%	仕分け袋 回収重量 1,842kg 回収率 9.6%

フードマイレージ
2011年11月までに組合員の利用によってたまったのは 141,303,806.6 poco
CO_2に換算して14,130トンを削減したことになります

アジア民衆基金
2011年11月までに組合員の利用によってたまったのは 23,112,550円

放射能汚染測定結果は、別紙の残留放射能検査結果に掲載しています。

みどりの地球をみどりのままで…

グリーンコープ

共生の時代

別紙

●発　行　グリーンコープ共同体理事会
●編　集　共生の時代・編集部
〒812-8561　福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
カーニープレイス博多3階
●電話（092）481-7923　●FAX（092）481-7876
●ホームページ：http://www.greencoop.or.jp/

放射能汚染と向きあう
（放射能測定室より）

放射能検査機器CJ−NaI食品・放射能測定装置（キャンベラジャパン（株）社製）
自主基準10ベクレル／kgを測定することができる性能を備えています

東京電力の原子力発電所の事故を受けて、11月8日～12月3日に検査した67品目についての残留放射能検査結果をお知らせします

67品目のうち、2品目についてグリーンコープのアクションレベル（10ベクレル／kg）内の残留放射能が検出されました。該当の商品は、281番と282番（一覧表裏面）です。

放射性セシウムについては、国の暫定基準は飲料・牛乳・乳製品が200ベクレル／kg以下、それ以外の肉・野菜等が500ベクレル／kg以下です。

グリーンコープではこれまで通り10ベクレル／kg以下を基準とし、引き続き検査を行っていきます。

グリーンコープ共同体全体で脱原発署名に取り組んでいます

グリーンコープは、一貫して脱原発を主張してきました。原発のない社会をめざして、全国の仲間と共に、～さようなら原発100万人アクション～「脱原発をめざし自然エネルギー中心の社会を求める全国署名」に取り組んでいます。各単協では、目標の1,000万筆をめざして街頭署名の取り組みが12月～1月にかけて行われます。

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果⑧

※検査法の記号「Ge」はゲルマニウム半導体検出器での測定であることを示しています
「NaI」はNaIシンチレーションスペクトロメータでの測定であることを示しています
※番号281、282は外部の機関に検査を委託したため、検出限界値は5Bq／Kgの整数表記となっています

番号	商品名	製造地・生産地	製造日・収穫日等	測定日	検査法（Ge/NaI）	ヨウ素		セシウム−134		セシウム−137	
						結果（Bq/kg）	検出限界値（Bq/kg）	結果（Bq/kg）	検出限界値（Bq/kg）	結果（Bq/kg）	検出限界値（Bq/kg）
338	レーベンスミルクはいはい（和光堂）	栃木県さくら市	2011年10月20日 製造	2011年12月 3日	NaI	検出限界値未満	1.69	検出限界値未満	2.92	検出限界値未満	2.80
337	フォローアップミルクぐんぐん（和光堂）	栃木県さくら市	2011年10月 3日 製造	2011年12月 3日	NaI	検出限界値未満	1.60	検出限界値未満	2.70	検出限界値未満	2.60
336	産直りんご（王林）（ハケタ会）	長野県長野市	2011年11月17日 収穫	2011年11月29日	NaI	検出限界値未満	2.35	検出限界値未満	3.78	検出限界値未満	3.70
335	産直りんご（ふじ）（ハケタ会）	長野県長野市	2011年11月17日 収穫	2011年11月29日	NaI	検出限界値未満	2.62	検出限界値未満	4.29	検出限界値未満	4.17
334	産直りんご（ふじ）（信濃五岳会）	長野県上高井郡	2011年11月17日 収穫	2011年11月30日	NaI	検出限界値未満	2.52	検出限界値未満	4.12	検出限界値未満	3.99
333	産直赤とんぼA夢つくし［玄米］（田川農協赤村）	福岡県田川郡	2011年9月12日～9月15日 収穫	2011年11月28日	NaI	検出限界値未満	2.36	検出限界値未満	3.78	検出限界値未満	3.67
332	産直赤とんぼB無洗米ひのひかり［玄米］（佐賀県減農薬研究会）	佐賀県杵島郡	2011年10月16日 収穫	2011年11月25日	NaI	検出限界値未満	2.43	検出限界値未満	3.94	検出限界値未満	3.84
331	凍）国産牛小間切（袋入り）（株式会社イサミ）	鹿児島、宮崎、大分	2011年11月21日 製造	2011年11月30日	NaI	検出限界値未満	3.97	検出限界値未満	6.33	検出限界値未満	6.17
330	刺身用帆立貝柱	北海道	2010年10月4日 水揚げ	2011年11月29日	NaI	検出限界値未満	2.44	検出限界値未満	3.92	検出限界値未満	3.82
329	戻りかつお刺身用（太平洋産）	三陸	（原料かつお）2011年10月6日 水揚げ	2011年11月30日	NaI	検出限界値未満	2.37	検出限界値未満	3.84	検出限界値未満	3.72
328	あらびきウインナー	熊本県菊池市	2011年11月23日 製造	2011年11月26日	NaI	検出限界値未満	4.55	検出限界値未満	7.67	検出限界値未満	7.37
327	徳用塩秋鮭切身（北海道産）	北海道	2011年8月17日 水揚げ	2011年11月29日	NaI	検出限界値未満	2.27	検出限界値未満	3.62	検出限界値未満	3.53
326	パエリアセット	北海道、三陸	（原料するめいか）2011年6～7月 水揚げ	2011年11月25日	NaI	検出限界値未満	2.24	検出限界値未満	3.68	検出限界値未満	3.58
325	産直人参（多久愛菜会）	福岡県前原市	2011年11月21日 収穫	2011年11月28日	NaI	検出限界値未満	2.69	検出限界値未満	4.42	検出限界値未満	4.28
324	産直人参（綾照葉会）	宮崎県東諸県郡	2011年11月21日 収穫	2011年11月28日	NaI	検出限界値未満	2.87	検出限界値未満	4.85	検出限界値未満	4.69
323	ホワイトソフトマーガリン	埼玉県春日部市	2011年10月24日 製造	2011年11月26日	NaI	検出限界値未満	4.30	検出限界値未満	7.03	検出限界値未満	6.85
322	三陸産ムラサキイカ	三陸	2011年7月 漁獲	2011年11月25日	NaI	検出限界値未満	2.28	検出限界値未満	3.61	検出限界値未満	3.53
321	ギフト）大麦工房ダクワーズ詰合せC（ダクワーズプルーン・ストロベリー・抹茶）	栃木県足利市	2011年11月18～22日 製造	2011年11月25日	NaI	検出限界値未満	2.27	検出限界値未満	3.79	検出限界値未満	3.67
320	産直赤とんぼBヒノヒカリ［白米］（下郷農協）	大分県中津市	2011年10月12日～2011年10月13日 収穫	2011年11月30日	NaI	検出限界値未満	2.46	検出限界値未満	4.05	検出限界値未満	3.94
319	五目がんも	福岡県福岡市	（原料やまいも）2010年12月～2011年2月 収穫	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	4.31	検出限界値未満	6.91	検出限界値未満	6.78
318	産直赤とんぼA夢つくし［玄米］（にじ農協赤とんぼ田主丸）	福岡県久留米市	2011年9月25日～2011年9月29日 収穫	2011年11月19日	NaI	検出限界値未満	2.39	検出限界値未満	3.81	検出限界値未満	3.71
317	産直赤とんぼAこしひかり［玄米］（六日市合鴨水稲会）	島根県鹿足郡	2011年 9月24日 収穫	2011年11月19日	NaI	検出限界値未満	2.45	検出限界値未満	4.01	検出限界値未満	3.88
316	産直赤とんぼA胚芽無洗米にこまる［白米］（城島町稲作研究会）	福岡県久留米市	2011年10月24日 収穫	2011年12月 1日	NaI	検出限界値未満	2.33	検出限界値未満	3.80	検出限界値未満	3.72
315	おとうふ揚げ（冷凍）	宮城県石巻市	2011年11月 8日 製造	2011年11月18日	NaI	検出限界値未満	2.33	検出限界値未満	3.86	検出限界値未満	3.75
314	産直赤とんぼ有機栽培こしひかり［白米］（米沢郷牧場）	山形県東置賜郡	2011年10月 3日 収穫	2011年12月 1日	NaI	検出限界値未満	2.39	検出限界値未満	3.91	検出限界値未満	3.84
313	産直赤とんぼ有機栽培こしひかり［玄米］（米沢郷牧場）	山形県東置賜郡	2011年10月 3日 収穫	2011年11月18日	NaI	検出限界値未満	2.48	検出限界値未満	4.10	検出限界値未満	4.00
312	てりやきミートボール	佐賀県三養基郡	2011年11月17日 製造	2011年11月24日	NaI	検出限界値未満	3.73	検出限界値未満	6.04	検出限界値未満	5.86
311	産直赤とんぼBひとめぼれ［玄米］（大分県農協久住）	大分県竹田市	2011年 9月26日 収穫	2011年11月24日	NaI	検出限界値未満	2.41	検出限界値未満	3.95	検出限界値未満	3.86
310	産直予約赤とんぼAひのひかり［玄米］（菊川レインボー稲作研究会）	山口県下関市	2011年10月 1日 収穫	2011年11月24日	NaI	検出限界値未満	2.33	検出限界値未満	3.83	検出限界値未満	3.72
309	ギフト）大麦工房ダクワーズ詰合せC（大麦ウエハースショコラ・大麦チョコレート）	栃木県足利市	2011年10月3日～6日 製造	2011年11月23日	NaI	検出限界値未満	2.23	検出限界値未満	3.65	検出限界値未満	3.55
308	産直赤とんぼAひのひかり［玄米］（北さつま農協伊佐総合支所楽農園）	鹿児島県伊佐市	2011年10月20日 収穫	2011年11月24日	NaI	検出限界値未満	2.44	検出限界値未満	4.00	検出限界値未満	3.88
307	国産ムラサキイカ切身（醤油バターたれ漬け）	岩手県宮古市	（原料ムラサキイカ）2011年8月 漁獲	2011年11月23日	NaI	検出限界値未満	2.26	検出限界値未満	3.62	検出限界値未満	3.55
306	えびフライ 180g	宮城県石巻市	2011年11月 5日 製造	2011年11月23日	NaI	検出限界値未満	2.37	検出限界値未満	3.90	検出限界値未満	3.79
305	産直赤とんぼAこしひかり（農薬不使用）［玄米］（西いわみ農協柿木支所）	島根県鹿足郡	2011年 9月10日 収穫	2011年11月23日	NaI	検出限界値未満	2.45	検出限界値未満	4.00	検出限界値未満	3.87
304	よつ葉バター（加塩）	北海道河東郡	2011年 9月20日 製造	2011年11月22日	NaI	検出限界値未満	2.41	検出限界値未満	3.86	検出限界値未満	3.78
303	産直赤とんぼB無洗米こしひかり［玄米］（福岡嘉穂農協）	福岡県飯塚市	2011年 8月24日 収穫	2011年11月22日	NaI	検出限界値未満	2.54	検出限界値未満	4.20	検出限界値未満	4.06
302	産直赤とんぼAひのひかり［玄米］（肥後七草会）	熊本県宇城市	2011年10月 4日 収穫	2011年11月21日	NaI	検出限界値未満	2.32	検出限界値未満	3.78	検出限界値未満	3.66
301	産直赤とんぼAひのひかり［玄米］（かごしま合鴨クラブ）	鹿児島県鹿児島市	2011年10月 9日 収穫	2011年11月21日	NaI	検出限界値未満	2.38	検出限界値未満	3.82	検出限界値未満	3.72
300	ミニおでんセット	山口県防府市	（真イカ）2010年6月～2011年2月 水揚げ	2011年11月22日	NaI	検出限界値未満	3.90	検出限界値未満	6.35	検出限界値未満	6.20
299	産直赤とんぼB下郷農協ヒノヒカリ［玄米］（下郷農協）	大分県中津市	2011年10月12日～2011年10月13日 収穫	2011年11月22日	NaI	検出限界値未満	2.42	検出限界値未満	3.91	検出限界値未満	3.80
298	産直米赤米［玄米］（糸島赤米プロジェクト）	福岡県糸島市	2011年11月11日 収穫	2011年11月21日	NaI	検出限界値未満	2.48	検出限界値未満	4.12	検出限界値未満	3.99
297	いわしフィレ（東シナ海産）	東シナ海	2011年10月14日 漁獲	2011年11月18日	NaI	検出限界値未満	4.01	検出限界値未満	6.44	検出限界値未満	6.19
296	ホワイトヨーグルト	山口県下関市	2011年11月16日 製造	2011年11月19日	NaI	検出限界値未満	3.94	検出限界値未満	6.35	検出限界値未満	6.21
295	産直赤とんぼAほくりゅう［玄米］（きたそらち農協北竜）	北海道雨竜郡	2011年10月 3日 収穫	2011年11月21日	NaI	検出限界値未満	2.44	検出限界値未満	4.00	検出限界値未満	3.88
294	産直若鶏正肉ムネ（国産）（秋川牧園）	山口県山口市	2011年10月17日 製造	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	4.11	検出限界値未満	6.64	検出限界値未満	6.39
293	蒜山酪農ジャージーバター	岡山県真庭市	2011年11月 3日 製造	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	3.93	検出限界値未満	6.53	検出限界値未満	6.32
292	赤とんぼCこしひかり［白米］（阿蘇農協阿蘇）	熊本県阿蘇市	2011年 9月27日 収穫	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	2.31	検出限界値未満	3.75	検出限界値未満	3.68
291	赤とんぼCこしひかり［玄米］（阿蘇農協阿蘇）	熊本県阿蘇市	2011年 9月27日 収穫	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	2.43	検出限界値未満	4.03	検出限界値未満	3.94
290	生乳たっぷりヨーグルト	福岡県福岡市	2011年11月13日 製造	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	3.95	検出限界値未満	6.47	検出限界値未満	6.30

番号	商品名	製造地・生産地	製造日・収穫日等	測定日	検査法(Ge/NaI)	ヨウ素 結果(Bq/kg)	ヨウ素 検出限界値(Bq/kg)	セシウム-134 結果(Bq/kg)	セシウム-134 検出限界値(Bq/kg)	セシウム-137 結果(Bq/kg)	セシウム-137 検出限界値(Bq/kg)
289	産直たまご（秋川牧園）	山口県山口市	2011年11月14日 収穫	2011年11月17日	NaI	検出限界値未満	3.93	検出限界値未満	4.32	検出限界値未満	6.32
288	赤とんぼCひのひかり[白米]（上益城農協矢部）	熊本県上益城郡	2011年10月24日 収穫	2011年11月16日	NaI	検出限界値未満	2.26	検出限界値未満	3.63	検出限界値未満	3.57
287	赤とんぼCひのひかり[玄米]（上益城農協矢部）	熊本県上益城郡	2011年10月24日 収穫	2011年11月16日	NaI	検出限界値未満	2.45	検出限界値未満	4.01	検出限界値未満	3.91
286	赤とんぼB無洗米ひのひかり[白米]（上益城農協清和）	熊本県上益城郡	2011年10月1日～2011年10月4日 収穫	2011年11月15日	NaI	検出限界値未満	2.24	検出限界値未満	3.63	検出限界値未満	3.58
285	赤とんぼB無洗米ひのひかり[玄米]（上益城農協清和）	熊本県上益城郡	2011年10月18日 収穫	2011年11月15日	NaI	検出限界値未満	2.38	検出限界値未満	3.94	検出限界値未満	3.84
284	いわしつみれ鍋（スープ付）	長崎県長崎市	（原料イワシ）2011年8月 漁獲	2011年11月16日	NaI	検出限界値未満	2.41	検出限界値未満	3.92	検出限界値未満	3.84
283	産直人参（吾妻有機農業研究会）	長崎県雲仙市	2011年11月12日 収穫	2011年11月14日	NaI	検出限界値未満	2.73	検出限界値未満	4.56	検出限界値未満	4.36
282	ギフト）花どんこHA50②	大分県全域	2010年･2011年 収穫	2011年11月 8日	Ge	検出限界値未満	5	検出限界値未満	5	7	5
281	ギフト）花どんこHA50①	大分県全域	2010年･2011年 収穫	2011年11月 8日	Ge	検出限界値未満	5	検出限界値未満	5	5	5
280	親鶏ミンチ300g	熊本県熊本市	2011年11月 8日 製造	2011年11月15日	NaI	検出限界値未満	3.95	検出限界値未満	6.61	検出限界値未満	6.41
279	予約赤とんぼBあきげしき[白米]（阿蘇農協小国郷）	熊本県阿蘇市	2011年10月14日 収穫	2011年11月11日	NaI	検出限界値未満	2.31	検出限界値未満	3.76	検出限界値未満	3.69
278	予約赤とんぼBあきげしき[玄米]（阿蘇農協小国郷）	熊本県阿蘇市	2011年10月14日 収穫	2011年11月14日	NaI	検出限界値未満	2.40	検出限界値未満	3.95	検出限界値未満	3.86
277	生芋板こんにゃく200g	熊本県宇城市	（原料こんにゃく芋）2010年11月 収穫	2011年11月14日	NaI	検出限界値未満	2.35	検出限界値未満	3.82	検出限界値未満	3.73
276	三陸産冷凍生うに	青森県三戸郡	2011年6月 漁獲	2011年11月15日	NaI	検出限界値未満	2.32	検出限界値未満	3.75	検出限界値未満	3.66
275	産直赤とんぼCにこまる[白米]（島原雲仙農協）	長崎県雲仙市	2011年10月20日～2011年10月22日 収穫	2011年11月10日	NaI	検出限界値未満	2.32	検出限界値未満	3.78	検出限界値未満	3.69
274	産直赤とんぼCにこまる[玄米]（島原雲仙農協）	長崎県雲仙市	2011年10月16日～2011年10月25日 収穫	2011年11月11日	NaI	検出限界値未満	2.46	検出限界値未満	4.07	検出限界値未満	3.92
273	予約赤とんぼBキヌムスメ[白米]（やすぎ農協）	島根県安来市	2011年10月13日～2011年10月16日 収穫	2011年11月 9日	NaI	検出限界値未満	2.29	検出限界値未満	3.72	検出限界値未満	3.66
272	予約赤とんぼBキヌムスメ[玄米]（やすぎ農協）	島根県安来市	2011年10月13日～2011年10月16日 収穫	2011年11月10日	NaI	検出限界値未満	2.36	検出限界値未満	3.79	検出限界値未満	3.70

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

検査対象エリア　グリーンコープは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域を、関東から東北地方と考えています。文部科学省から出されている（新聞で報道されている）大気中の「環境放射能水準調査結果」を基に、通常レベルより高いエリアについても検査対象としています。なお、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く摂取する商品及び椎茸など放射性物質を蓄積しやすい商品は検査することにしています。また、水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されています。その情報などを基に漁獲海域によって放射能検査をする対象を判断していきます。

検査対象　2011年３月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関　2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室（福岡市）で検査を開始しました。ただし、グリーンコープ放射能測定室で検査可能な品目数を超えた場合などは、これまでと同様に外部機関に検査を委託することもあります。

検査日　検体を測定した日を記入しています。

検査結果の表記　ヨウ素とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。
※これまで検出限界値未満の測定結果については「検出せず」と表記してきました。検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。厚生労働省からも9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するよう通知が出されており、国や自治体から公表される検査結果には、「不検出」や「検出せず」ではなく、検出限界値が表示されるようになりました。

シリーズ(4)
被災地復興の今

2011年春に組合員から託された救援物資が、冬を迎えた被災地で活用され、喜ばれています

東日本大震災直後に、組合員や取引先から集まった救援物資は、10ｔトラック50台分にもなりました。すぐに被災地に届けられたものもありますが、暖かくなるに伴って、冬物衣類や布団類などは需要がなくなり、倉庫で出番を待っていました。それらが現在、有効に活用されています。

宮城県石巻市、亘理（わたり）町などを中心に、福島県から山形県に避難された人たちも含めて、被災者の皆さんに届ける活動を続けています。寒い仮設住宅で、支給されたこたつに布団がなくて困っていた人や、避難所から仮設住宅に入居する際に毛布を返却した人、防寒着がなくて困っていた人など、冬物の物資を必要とする被災者は多いようで、配布会にはたくさん人が集まります。現在、岩手県大船渡市、宮城県仙台市宮城野区、山元町へも物資を届けています。布団約４０００セット、こたつ布団約１５００セットは配布を終えています。現在、毛布や防寒着などの配布会を続けています。物資を受け取った被災者はとても喜ばれています。

宮城県の牡鹿半島から女川、南三陸までの、支援物資が行き渡りにくい場所にある小規模の仮設住宅及び在宅の被災住宅などに、支援物資として、米やスパゲッティ、醤油などの「生活応援セット」を届けながら、どのような支援が必要か聞き取りを行っています。また、クリスマス・正月を迎える被災地が元気になるような催しを被災地を支援している他の団体と相談してすすめています。被災者の状況に寄り添いながら、必要なところに必要なことやものを届けるきめ細やかな支援を続けています。

また、畑での瓦礫の撤去や、塩害対策としての菜の花の作付け、石巻に水揚げされる魚介類の放射能検査の支援など、被災地の産業の復興につながるさまざまな支援活動も行っています。

グリーンコープの単協や連合の職員有志によるボランティア活動、社会福祉法人グリーンコープの福祉ワーカーによる介護老人保健施設でのサポート活動なども、継続して行っています。

組合員から託された救援物資や募金は、有効に活用されています。

（共生地域創造財団より報告）

東松島での他の団体との共同配布会。現地ボランティアの応援もあり、防寒着、毛布、こたつ布団など10tトラック1台分の物資を配布した

亘理町では9つの仮設住宅で1000世帯の被災者対象に配布会を行っている。集会所で行うので混乱しないように事前に受付をして15人単位で時間を区切って行っている

若林区の畑。瓦礫を撤去し、塩害対策で畑に菜の花の種をまくようす。今後の生育状況を調査していく

石巻で行われた物資配布会のようす。ほとんどがグリーンコープからの支援物資

福島県から山形県へ避難された4000人程の方々への物資配布会に並べられた毛布

瓦礫撤去はすすみ、片付いてきてはいるがまだまだ（南三陸町）